



令和8年3月1日現在	
世帯数	2,902世帯
男	3,129人
女	3,299人
総人口	6,428人

令和7年度 堀米公民館ピンポンフェスティバル

1月18日(日)、堀米公民館にて「令和7年度ピンポンフェスティバル」が開催されました。老若男女を問わず、卓球未経験者でも気軽に楽しめる地域交流イベントとして企画され、今年で3回目を迎えました。今年子ども6名を含む22名が参加し、チームに分かれて卓球にまつわるさまざまな競技に挑戦しました。



- ①ピンポンカップイン 卓球台の上に置いた紙コップをめぐってボールを打ち、コップに入れるゲーム。
- ②ピンポン玉リフティング 円になって並び、ラケットでのリフティング回数を競うゲーム。
- ③ラリーゲーム ダブルスで交互に打ち合い、続いたラリー回数を競うゲーム。
- ④的当てゲーム 太鼓の的を狙ってボールを打ち、命中を競うゲーム。
- ⑤体験試合 実際の卓球試合を体験。

昨年にも続き、今年もピンポン玉・ラケット・卓球台を使った5つの競技を実施しました。競技内容は次のとおりです。

紙コップにボールが入ったり、太鼓の的に命中して大きな音が鳴ったりするたびに、会場は拍手と歓声に包まれました。ラケットをうまく使えない子どもはボールを手で投げることもできるなど、子どもから高齢者まで誰でも気軽に楽しめる内容で、初参加の家族や卓球未経験者もチーム一体となって盛り上がり、あっという間に競技を終えました。優勝チームをはじめ、参加者には家計にやさしい(?)豪華景品も贈られました。



季節の写真1

福寿草



雪の松本城

堀米公民館、堀米体育部、堀米卓球部が主催するこの「ピンポンフェスティバル」は、誰もが気軽に卓球に親しめる場として企画され、今年も大盛況となりました。来年度も多くの皆さまのご参加をお待ちしております。

ポッチャは簡単なルールで誰でも楽しめるスポーツです。初めて体験する参加者も多く見られましたが、試合が始まるとすぐにコツをつかみ、会場には歓声や笑顔が広がっていました。年齢や体力に関係なく同じフィールドで競い合えることが、ポッチャの大きな魅力であり、互いに声をかけ合いながらプレーする姿が印象的でした。

世代をこえて楽しむ 島立地区ポッチャ大会

2月1日(日)、島立体育館にて、島立地区ポッチャ大会が開催されました。当日は子どもから高齢者まで、17チーム約1000人が参加し、世代をこえて交流を深める一日となりました。



優勝	南栗
準優勝	荒井
第3位	町区

【成績】

参加者からは「初めてだったがとっても楽しかった」「またぜひ参加したい」といった声も聞かれ、地域のつながりを感じ、温かな大会となりました。

半身の運動困難や視野の欠如、言語機能障害の主な症状以外にも、急に元気がなくふさぎ込む等があり、日頃と違う姿を本人・家族が気にかけていくコミュニケーションの大切さを再確認しました。真っ直ぐ歩けない、お茶を飲むとむせる等の日常生活から気付けることは多く、もしかしてと感じたら受診し、症状が中等度であれば近場と云えど、救急車の要請をした方が迅速な処置や検査を行えると助言を得られました。まず主治医に相談してみることが大切ですね。

春の暖かさが感じられる2月14日(土)、一之瀬脳神経外科病院より講師を招き脳卒中予防を学びました。



町区冬季成人講座'26

南栗公民館冬季講座 「南栗遺跡」

南栗町会では、2月15日(日)に南栗公民館主催による冬季講座を行いました。今年度は、南栗遺跡に関する講演会で、調査を担当している、長野県埋蔵文化財センターの方に来ていただき、今までの調査で分かったことをまとめて報告してもらいました。

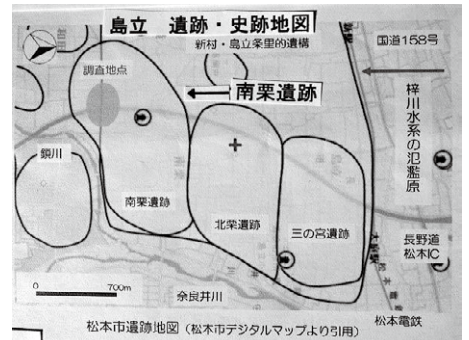
この調査は、中部縦貫自動車道の建設工事に伴うもので、南栗地籍の栗林神社周辺で実施されており、今年度で5年目になります。その結果、とても興味深いことがいくつ分かかってきました。

一つは、奈良時代から平安時代まで数百年間にわたる生活の跡が同じ場所で確認され



南栗公民館冬季講座の様子

区には、南栗遺跡以外にも、北栗の宮遺跡や三の宮遺跡があることが確認されており、それらのつな



島立の遺跡地図 (南栗遺跡等)



南栗遺跡の発掘現場 (住居跡)

たことです。そして、もう一つは、松本盆地で最大級の古代集落が確認されたことです。堅穴建物跡や掘立柱建物跡等の建物跡が、600軒以上発見され、ここに古代集落があったことを裏付けています。つまり、南栗周辺は、昔からかなり多くの人々が、長期間にわたって住んでいた場所であるという事です。

がりもあるのですが、講師の方は、すべてをまとめて、「島立遺跡」と言ってもいいのではないかと述べていました。これらの事実から、島立地区は、昔から人が住みやすい場所ではなかったかと思ひ、古代への口マンをかきたてられます。毎年、発掘現場での現地説明会が実施されているので、また参加してみたいと思います。

季節の写真2 安曇野の白鳥湖



永田三九郎

コンサートは楽団ケ・セラの演奏から始まりました。障がいを持つ若者たちが音楽活動を通じて社会的自立を目指す楽団で、幅広いジャンルの演目に手話やダンスも交えたパフォーマンスが披露されました。軽やかでのびのびとした演奏に、会場からの手拍子

やりが、日々の生活の中でも息づき、誰にとっても暮らしやすい地域づくりへとつながっていくことを願っています。

2月23日(月・祝)松本市音楽文化ホールにて、人権を考える住民のつどい「島内・島立ふれ愛コンサート」が開催されました。「音楽」の力を借りて地域住民が触れ合い、互いの個性や違いを尊重しながら「人権」について考えることを目的としたコンサートです。

音を通じて、人と人がつながり、お互いを尊重し合う大切さをあらためて感じるひとときとなりました。本コンサートで得た気づきや思い

は次第に大きくなりました。続いて、松島中学校・高綱中学校吹奏楽部による演奏が続きました。若い力あふれる音色に会場は引き込まれ、最後は両校に島立小学校の有志が加わった3校合同の「宝島」の息の合った力強い演奏は、会場に大きな感動を届けました。



松島中学校吹奏楽部



島内・島立ふれ愛コンサート 楽団ケ・セラ



合同演奏



高綱中学校吹奏楽部

島内・島立ふれ愛コンサート